

## コラム記事

セキュリティ対策を全くとっていない企業はほとんど0に近いと思います。

ですが、自社で取り入れているセキュリティ対策が100%であると断言できる企業は多くはないのではないのでしょうか。

昨今よく目にする個人情報の流出ですが、ほとんどの原因は不正アクセスです。不正アクセスから情報を守れるかどうかは各企業の信頼度にもつながるのではないかと考えております。

そんな中で、不正アクセスにより個人情報が流出したとの記事が掲載されておりましたのでご紹介いたします。



### 「シード」に不正アクセス、顧客など最大7万件の個人情報流出か

(読売新聞オンライン 2023/4/19(水) 12:11 配信 より引用)

コンタクトレンズ製造販売大手のシードは、昨年11月末に外部から不正アクセスを受け、顧客や従業員などの個人情報が最大約7万件流出した可能性があるとして発表した。現時点で個人情報を悪用した事例は確認されていないとしている。

発表によると、個人情報が流出した可能性があるのは、昨年11月末以前に子会社「シードアイサービス」の国内店舗でコンタクトを購入した顧客の住所や氏名、電話番号、生年月日、性別、メールアドレスなど。クレジットカードの情報は含まれていない。不正アクセスの判明後、調査を進めたところ、流出の可能性が出てきたという。

対象となる顧客は郵送などで連絡し、問い合わせはホームページで受け付ける。



不正アクセスによる個人情報の流出は企業の規模に関係なく、どの企業にも起こり得る問題です。

ITの発展に伴い、クラウド上で情報管理をしている企業も増えている中で、セキュリティ対策を100%の状態を取れているかどうか非常に重要となってくると感じています。

実際の被害は確認されていないようですが、「被害に気付いていないケース」も存在することを念頭に置き、セキュリティ対策を進める必要があります。